

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300060		
法人名	同朋福祉会		
事業所名	認知症対応型グループホームゆいしん		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1707-2		
自己評価作成日	平成27年4月20日	評価結果市町受理日	平成28年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝スタッフの号令と共にご利用者とスタッフがそれぞれに掃除道具を持ち、各居室や食堂・廊下の掃除を30分程度行っています。また、DVDを活用し30分程度のイスに座って出来るリハビリ体操も毎日午前中に実施し、天気の良い時は周囲を散歩したり、筋力低下の予防に努めています。食事は三食ともスタッフが手作りし、ご利用者の要望を献立に取り入れられたり、その時々体調に合わせて内容を変更したり、苦手な物には別メニューを出したり多様なニーズに対応できるようにしています。地域の方の御好意でお借りした畑で様々な野菜を育て、成長していく過程を見届けながら一緒に収穫の喜びを味わい、収穫した野菜はすぐに献立に取り入れ採れたての野菜を皆さんに味わって頂いています。皆さんが以前から参加されていた地域のイベントには積極的に参加すると共に、毎月外出ドライブとして馴染みの地域の名所に花見や買い物に出かけるように支援しています。遠く離れた所に住んでおられるご家族が多いことから、毎月ご利用者のご様子を書いた手紙と写真を送ってご家族に近況を伝え安心していただけるようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年5月29日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、利用者の好みを聞いて献立を立てられ、事業所の畑で取れた野菜や近所からの差し入れの野菜など、旬の食材を使って、三食とも事業所でつくっておられます。事業所の畑で利用者と職員と一緒につくった野菜の収穫、買い物、調理、盛り付け、配膳、食事の挨拶、後片付けなどを、利用者は家庭的な雰囲気の中で職員と一緒にしておられ、利用者と職員は同じ食卓を囲んで和やかに食事を味わいながら、食事が楽しめるように支援しておられます。月1回、事業所便りと一緒に利用者の暮らしの状況を写真を添えて、家族に知らせておられる他、外出や外泊、買物などを家族の協力を得て支援されるなど、利用者と家族の絆を大切にしながら、共に支えあう関係を築いておられます。管理者は、毎日の朝礼時や月1回の職員会議等で職員の意見や提案を聞いておられる他、日常の業務の中でも意見が言いやすいよう雰囲気づくりに努めておられ、車椅子の昇降可能な小型自動車の購入や職員の事情を考慮した勤務体制など、職員の意見や提案を運営に反映しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をスタッフ間で共有し実践につなげている。事業所理念についてはホーム内に掲示し常に目につくようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。新人職員には研修で説明をしている。日々の業務の中で「やさしい心、温かい心、ふれあう心」を持って利用者に接するように話し合い、理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(桜まつり、農業祭、福祉の市、花火等)に参加したり、地元の商店や道の駅などに出かけて買い物したり、その先々で馴染みの方々と交流する機会を設けている。日々の散歩でもご近所の方々には積極的に挨拶し、ご自宅の花壇を見せて頂くなど交流を図っている。散歩コースが近隣の小学校の通学路の為、子供達とも挨拶を交わす事が出来る。	運営推進会議の参加者や地元に住んでいる職員からの情報を得て、地域の行事(市主催の桜祭りや農業祭、福祉の市)や近くの神社の祭に、利用者と職員と一緒に参加している。利用者は併設の特別養護老人ホームの交流ホールに来訪するボランティア(工作、踊り、歌)の人や交流ホールに集まる地域の人、併設施設利用者と交流している。散歩時や買物時に出会う近所の人や通学時の小学生と挨拶を交わし、散歩コースにある民家の花壇を見せてもらうなど、日常的に地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフの経験の中から、ご面会に来られたご家族や知人の方々、外出先で出会った地域の方々に、ご利用者の状況を説明しながら、認知症についての理解や支援方法について伝えられるように努めている。また、認知症のご家族を抱えてのお悩みやご相談にも真摯に対応し、利用できるサービスなどのアドバイスも積極的に行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回は初めての外部評価ということで評価の意義というものが理解できないスタッフもいたが、前回の評価を受けて、自分達に足りなかった部分や、良い評価を頂いた事については自信にも繋がり、より良いケアの向上を目指す指針となった。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、前年度の外部評価結果の記録を基に職員ひとり一人から意見を聞き、まとめている。自己評価を通して、職員は日々のケアの確認と見直しができている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画をたて、事故防止のための転倒時の処置やAEDの使用方法について学んでいる他、防災訓練に地域の方の参加を得るなど、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、地域の方々、ご家族を交えた運営推進会議を開催している。利用者の状況や活動内容を報告し地域の方々により理解して頂けるように努めると共に、地域の方々からの意見やイベント・地域の活動についての情報を得る機会の場となっている。	併設3施設(小規模多機能居宅介護事業所他)合同で、5回実施している。利用者の生活状況や、事業所の取組状況等の報告をして、意見交換をしている。参加者からは地域行事やボランティア等の情報を得ている他、防災訓練に地域のメンバーの参加があるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課や地域包括支援センターとは運営推進会議時に意見や助言を得ている他、手続き等で窓口に向いた際に情報交換をするなど協力関係を築くようにしている。	市担当課とは運営推進会議の他、電話や直接出向いて情報交換したり、更手続きについて相談して助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時に情報交換や利用者について相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回の施設内研修において定期的にスタッフ全体で「身体拘束をしないケア」についての理解を深めている。また、日々の業務中においてスピーチロックなどの現場を見かけた時にはその都度スタッフ間で注意し合うようにしている。各玄関には施錠はせず、外に出たい時にはスタッフに声をかけて下さるように張り紙をしたり、一緒に外出している。	法人のマニュアルがあり、法人研修で学び、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては職員間で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修においてスタッフ全体で虐待防止について学ぶ機会を持ち、どのような事が虐待になるのか、自分たちの言動が虐待につながっていないか見つけ直し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、開設当初の研修で学ぶ機会を設けたが、その後設けていない為、そのような対象者のご相談があった際にきちんと説明が出来るように再度学ぶ機会を設けていきたい。また、市の社会福祉協議会とも連携を図れるような話し合いの場を作っていかなければならない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際には、ご利用者、ご家族へ十分な説明を行い、疑問点や不安に思っていることについても納得して頂けるよう説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制や処理手続きについて家族に説明している。玄関にも意見箱を設置している。ご家族に対しては毎月お手紙でご利用者の様子を伝え、ご家族からの意見や要望が出て頂けるような関係づくりに努めている。4月に家族会を実施し直接家族の意見を聞く機会も設け次回は9月を予定している。	苦情相談窓口や受付体制を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。玄関に意見箱を設置している。年1回の家族会や運営推進会議時、面会時、電話等で、家族から意見や要望を聞いている。家族には月1回、利用者の生活状況を写真を添えて知らせ、意見や要望が言いやすいように取り組んでいる。家族からは、利用者の外出支援等についての要望があり、対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中でスタッフ間の意見や提案を出し合い検討している。業務においてそれぞれ担当を設け、意見や提案、計画、必要物品について伝達簿に記入して、全員が見て検討し運営に反映させている。	管理者は毎日の朝礼時や月1回の職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で意見や提案が出しやすいような雰囲気づくりをして聞いている。新人職員には年2回、個人面談の機会を設けて意見を聞いている。利用者に対しての気づきやケアに関することは「伝達簿」に記録して、全職員で共有し、実践に結びつけている。車椅子の昇降可能な小型車の購入や事故防止のための与薬方法の改善、職員の事情を考慮した勤務体制の変更等、職員の意見を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の努力や実績を把握し、各自が抱える悩みや思いについても話を聞き、やりがいを持って働けるような職場作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、業務の中で個々がスキルアップしていけるように指導すると共に、月に1回勉強会を行い学ぶ機会を設けている。外部研修についても参加できるように今後検討していきたい。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は「実践者研修」受講を予定している。法人研修は年2回「学びセミナー」を開催し、外部講師を招いて「災害時の対応」と「障害とケア」について学んでいる。併設3施設合同での研修は、年間計画を立て、管理者と看護師が講師となって毎月、嚙下や食事介助、AEDの使い方、認知症、感染症、脱水、食中毒等について実施している。内部研修は、月1回ある職員会議で事故報告に基づく事例検討や外部研修の報告を実施している。新人職員は法人での研修の後、日々の業務の中で先輩職員から介護技術を学べるように支援し、6か月毎に行っている個人面談の中で状況を確認している。勤務調整をして資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の呼びかけにて開催されている意見交換会に参加し、同じ市内の同業者と交流する機会を作っている。また、法人内の他の事業所とも法人事業や研修会を通じて相互の活動についての情報交換などを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際には、ご利用者の聞きたい事、困っている事、不安な事をしっかりと聞き、安心してご利用して頂けるような信頼関係を築く努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者への対応と同様に、ご家族の聞きたい事、困っている事、不安な事をしっかりと聞き、安心してご利用して頂けるような信頼関係を築く努力をしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームのサービスの利用を相談に来られた場合であっても、早急な対応が必要と思われるケースであれば他事業所へのサービスを紹介したり柔軟に対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とスタッフが共に作業を行ったり、物事に取り組みながら、一つの家族として協力し合い共に生活するという関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月お手紙と写真で月々のご様子を伝えるようにし、メール交換や電話を通じて気軽に連絡を取り合い、共にご利用者のケアについて相談しあえる関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容院の方の送迎にて散髪に出かけたり、家族の協力にて法事や墓参りなどにも参加している。自宅のフキを採りに帰ったり、ご利用者の馴染みの方々との関係が途切れないようご家族にも呼び掛け、面会や一緒に外出出来る機会を設けたり、馴染みの場所へ行くことを希望されれば出来るだけ叶えられるように支援している。	家族や親せきの人、近所の人、同級生、職場の同僚の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。ドライブで自宅付近や元の職場付近に出かけたり、馴染みの商店での買物や馴染みの美容院の利用、家族の協力を得て外食、買物、美容院の利用、仏様を拝みに帰宅、外泊、墓参、法事に出席するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知のレベルによって交流が難しいご利用者同士においては、職員が話のきっかけを作ったり、間に入って一緒に交流がもてるよう雰囲気作りに努めている。ご利用者が他の方のお世話をされるケースもある。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体的状況によりグループホームから特養利用になられたご利用者においても、同施設内であることから時々会いに行き入居者同士の交流は行われている。必要に応じてご家族との相談などにも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で思いや希望を訴えられるご利用者については時間をかけてゆっくりと話を聞き、訴えることが困難な場合でも、ご利用者の表情や行動から何を訴えようとしているのか汲み取ろうとする努力をしている。日常のケアの中で聞いたご利用者の情報はケース記録や伝達簿に記入し職員間で共有している。	入居時のアセスメントで事業所独自のシートを活用している他、日々の関わりの中での会話や利用者の様子を「ケースダイアリー」や「伝達簿」に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から直接お話を聞く以外にも、ご面会にこられたご家族や知人の方からもお話を聞きながら、これまで歩んでこられたご本人様の生活歴を把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりのペースにあわせた生活パターンを大切し、参加できる事はお誘いし、残存機能を活かせるような活動をスタッフと一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活においてご利用者の思いや希望をよく聞き、ご家族についても、ご面会の際やお手紙・お電話等で意見を聞いて取り入れながら、スタッフ間で意見交換し介護計画を立てている。介護計画に基づいた記録はケースダイアリーとして毎日記入し、それを元に毎月モニタリングし、6か月に1回見直しを行っている。それ以外でも状態の変化に応じての見直しを行い、現状に即した介護計画にしている。	管理者と計画作成担当者が中心となって、月1回の職員会議の中でケアカンファレンスを行い、本人の思いや家族の意向、かかりつけ医、看護師の意見、「伝達簿」の記録を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを行い、6か月毎に見直している。利用者の要望や状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースダイアリーとして日々の様子を記録し、気づきやケアの提案・検討の必要性があれば【伝達簿】に記入してスタッフ間で情報を共有しその都度話し合い検討している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族の状況などを考慮し、かかりつけ病院への通院や、ご希望される場所への外出の付き添い、手続きの代行、買い物等を行なっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や入居前に交流のあった方々と連携を取り外出の支援をして頂いたり、入居前に通っていた美容院に引き続き通う事を希望された方には美容院の方に送り迎えをして頂く等している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望する入居前からのかかりつけ医や医療機関を継続し、週に2回又は希望時週1回の往診を受けている。緊急時は協力医療機関との連携を取り、情報を共有して適切な医療が受けられるように支援している。	本人と家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、週1回の往診と月1回定期受診を行い、以前からのかかりつけ医の受診や他科受診を含めて事業所で受診の支援をしている。受診結果は家族に手紙で知らせて共有している。看護師とは利用者の状態に関する相談を行い、夜間や緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに併設している特養の看護師と日頃から情報を共有しておき、変化や気づきがあった時は相談し指示を仰ぎ、必要に応じてかかりつけ医に往診を依頼したり、受診を行なっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は速やかに医療機関への情報提供を行い、関係作りに努めている。緊急な入院でご家族が遠方ですぐに駆けつけられない場合は、ご利用者に付き添う事はもちろんの事、入院に必要な物品等の準備を行っている。入院中も、こまめに面会に行き、医療機関との情報交換や相談に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、状態に変化が起こって来た場合には、今後の対応についてどのような考えを持っておられるかご本人様・ご家族の意向を聞き、当ホームで対応できる現状をきちんと説明をすると共に、医療機関や併設する特養の紹介等事業所としてできる限りの支援をしていくことをお伝えし、安心していただけるように努めている。	契約時に事業所でできる対応について、法人併設施設への移設も含めて、家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と話し合い、主治医や看護師等、関係者と移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が発生した場合は、その日のスタッフ間でまずは話し合い、小さなことでも報告書に記録して伝達簿にコピーしたものを添付し、毎朝の朝礼等で共有している。急変時、事故発生時の初期対応・応急手当・AEDの使用方法については連絡体制をきちんとし、施設内研修を通じて施設看護師からの指導を受ける機会を設けている。	発生した場合は、その場にいた職員で話し合い、「事故・ヒヤリハット報告書」に原因、状況、対応、今後の対策を記録し、回覧して全職員で共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人研修で緊急時の対応やAEDの使用方法について学習しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設3施設合同で夜間帯、日勤帯を想定しての防災訓練を実施している。訓練には消防署、地域の消防団、警備会社、防災設備会社、近隣住民等の協力を得て、実際にご利用者も参加して避難訓練している。毎晩22時前に3施設夜間スタッフが事務所に集合し、消防ミーティングを10分程度行い、火災時・災害時の役割分担・避難経路等の確認を行っている。	消防署や消防団、防災設備会社の協力を得て、併設3施設合同で年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、法人敷地内の避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を、利用者や地域住民も参加して実施している。併設3施設の夜間勤務者による消防ミーティングを毎晩行い、確実な避難誘導ができるように備えている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体研修にて、ご利用者の人格の尊重、接遇については学び、事業所全体の朝礼で繰り返し確認している。言葉使いや声掛けなど気になる点があればその都度スタッフ間で声をかけあったり、管理者が注意している。	職員は併設3施設の研修で学び、利用者に対して、人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者の個人記録の取り扱いには留意し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分の思いや意向をスタッフに対して訴えることができるような関係づくりに努め、自己決定が出来るように支援してる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者1人ひとりの生活ペースを大切に、様子を見守りながら必要に応じて声をかけ、無理に勧めたりすることなくご本人の意思に任せた暮らしを支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選択出来る方においてはお任せし、困難なご利用者においても出来るだけご自身の意思で選択できるように工夫して一緒に選ぶようにしている。身だしなみである化粧水等も洗顔後自分でつける事が出来るよう準備したり、いつまでもお肌のお手入れ等忘れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事はスタッフがご利用者の意見や嗜好を取り入れながら手作りしている。ホームの菜園で育てた野菜や、ご家族等から差し入れしていただいた食材も使用し、献立も柔軟に変更しながら対応している。収穫から下ごしらえ、調理・盛りつけにおいても、ご利用者に積極的にお手伝いして頂き一緒に行っている。後片付けや準備もご利用者同士が協力・役割分担し合いながら行なっている。誕生日の際にはご本人が食べたい物をメインに献立を立てたり、季節の食材を使った料理、季節の行事に合わせた膳を提供したり、食事を楽しめるように支援している。	利用者の嗜好を聞いて献立を立て、事業所の菜園で採れた野菜や差し入れの野菜など、旬の食材を使って、三食とも事業所でつくっている。利用者と職員が一緒につくった野菜の収穫、買物、野菜の下ごしらえ、味見、盛り付け、台拭き、トレイを拭く、お茶汲み、箸を並べる、食事の挨拶、下膳、茶わん洗いなど、利用者はできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み会話を楽しみながら一緒に食事をしている。おやつづくり(蒸しパン、蒸かし芋、白玉団子、おしるこ、ホットケーキ)やお弁当を持って戸外での食事、年5回の外出、誕生日には本人の好きな献立、季節の行事食(おせち料理、柏餅、ソーメン流し、餅つき)など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の要望や状態に合わせた食事量・水分量を確保しそれを毎食チェック表を記入して確認している。おやつの時以外でも入浴後や寝る前は水分補給を促し、夏場はこまめな水分補給に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前の歯磨き、義歯の洗浄は促しや見守り・一部介助にて毎日必ず実施している。起床後の口腔ケアについても同様。毎食後の口腔ケアとなると実際は出来ていないことが多いが、食後に必ずお茶を飲んでいただくことで、口腔内の洗浄効果に繋がればと考えている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意の無いご利用者についても、毎日の排泄チェック表でパターンを把握し、誘導を行っている。それ以外でも、表情や行動からのサインを見逃さないようにして一人一人に合わせた声かけを行い出来るだけトイレにて排泄が出来るように支援してる。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、利用者合った言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や便通に効果のある食材を使用したりする工夫や、体を動かすことで腸の動きを促すように努めている。状況に応じて、主治医に相談し内服薬を使用する場合もある。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日を休館日とし、それ以外は希望されれば毎日でも入浴出来るように支援している。あまり入浴を好まない利用者についても、声掛けを工夫して2日に1回は声をかけ入浴を勧めている。入浴が出来ない時は、清拭にて清潔保持と保湿、衣服の更衣を行っている。入浴時間は10時～16時の間でご希望の時間帯を聞き、スタッフと会話をしたり、好みの湯加減にしたり、入浴剤を使用する等入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は、毎日10時から16時まで可能で、一人ひとりの希望にそって入浴を楽しむことができるように支援している。個浴とし、入浴剤を入れて色や香りを楽しみ、柚子や菖蒲を入れて季節感を味わうなど、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間をずらしたり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態によっては、シャワー浴や清拭、足浴、部分浴など、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のペースを大切に、ご本人が休みたい時に自由にお部屋で休んでいただいている。悩みや不安事により、夜が眠れないことがないように、お話をしっかりと聞いて精神的に安心して休んでいただけるよう支援をしている。夜間よく眠れるように日中あまり寝込まれないような配慮もしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用されている薬の名前と作用を記した一覧表を掲示してみんなで確認するようにしている。薬は名前のシールを張ったケースに入れて間違いがないように夜勤者・日勤者で二重チェックし確認している。毎食後はきちんと飲んでいるか確認をし、薬の内容が変更になった時などは伝達簿にその事を記入して情報を共有、変化がある際にはDrに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握し、その方が遣り甲斐を持って参加できる事をレクや作業に取り入れ、またそれぞれが自分の役割を持つことで、日々の生活に張り合いが持て、自分の存在が役に立っているという喜びを感じてもらえるように支援している。	テレビやDVD視聴、新聞や雑誌を読む、日記をつける、皇室アルバムを見る、音楽を聴く、歌を歌う、ぬり絵、折り紙、貼り絵、切り絵、ちぎり絵、紙細工、パズル(漢字やひらがな、数字)、リハビリ体操、花を生ける、花の水替え、おしゃべり、散歩、掃除(箒、掃除機、雑巾がけ)、シーツ交換、布団干し、洗濯物干し、洗濯物取り込み、洗濯物たたみ、新聞紙でゴミ箱づくり、畑やプランターに苗植え、草取り、野菜の収穫、仏飯供え、ボタン付け、縫い物、雑巾縫い、買物、食事の準備、食事の後片付けなど、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のお散歩やホーム周囲の作物の収穫・水やり、季節毎のお花見、ドライブ、買い物、外食等出来るだけ戸外に出かける機会を設けている。ご利用者が希望されれば、必要に応じて職員が付き添い外出する事もある。また、ご家族や知人の方々のご協力も得ながら外出の支援も行なっている。	周辺の散歩や買物、美容院の利用、近くの神社、法人の運動会に出かけている。季節の花見(梅、桜、バラ、紫陽花、紅葉)やドライブ(自宅付近、元の職場付近、周辺の3つの道の駅、江汐公園、東行庵、南原寺、弁天池、雲海公園、美祢市内)に出かけている。家族の協力を得て、外食、買物、温泉、花見、墓参、法事への出席など利用者の希望に添って外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしたお金の中から希望される方には少しずつ財布に所持してもらっている。それ以外でも、外出等の際にはご本人様におこずかいとして預り金の中からお渡しし、ご自分で支払う機会を持つよう支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が希望される際にはご家族へお電話したり、また伝えたい事柄をスタッフが代行してご家族に伝えたりしている。定期的に面会に来られるご親戚の方の携帯電話を通じて面会の度に遠方の娘さんと電話で会話をしているご利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾りつけをご利用者と共に作成し展示したり、季節の花を食卓に飾り季節を感じていただいている。毎日手作りの食事を作っているのも、キッチンからの料理の匂いがホーム全体に広がり、食べる楽しみに繋げている。定期的な換気やご利用者の体調に合わせた室温調整に努め、室内の環境整備に配慮している。	リビングは自然光で明るく、対面式の台所に面しており、大きなテーブルと椅子が配置してある。窓からは周辺の日々や川、田園風景が一望でき、プランターに植えた季節の野菜や窓から入ってくる自然風に季節を感じることができる。壁面には職員と一緒に作った、季節の壁面飾りや手づくり作品が飾ってある。居室に続く廊下にはソファがあり、利用者が自由にくつろげるようになっており、音や温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席意外にソファや長椅子設けることで、気のあったご利用者同士がおしゃべりしたりすることができるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物(テレビ・ベッド・寝具・衣装かけ・椅子等)は持ち込んでいただけるよう声かけし、居室がご利用者にとって安心してくつろげる空間になるようにしている。ご利用者の部屋には思い出の写真や自分の作品を飾り、居心地の良い空間づくりに心掛けている。	ベッド、テレビ、籐椅子、小テーブル、衣装掛けスタンド、整理棚、位牌、時計、温湿度計、夫婦愛用のマグカップなど本人が使い慣れたものや好みの物を持ち込み、壁面のボードに家族の写真や自作品(ぬり絵、習字、月別カレンダー)を飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって慣れた環境を保つことで、自主的に物事が行えたり、混乱することなく行動できるような環境作りに努めている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームゆいしん

作成日: 平成 27 年 10 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設内研修として緊急時の対応や感染対応について学んでいるが、実践力を身につけるまでの内容になっていない	全職員が実践力を身につける為の定期的訓練の実施。 外部指導者によるAED使用、救急処置対応の実践	定期的に研修において、実技による研修を行う。 救急救命士を講師に呼び、AEDの使用について心臓マッサージ、救急時の初期対応を学ぶ	6ヶ月
2	8	開設3年を迎え職員のご利用者に対する声かけや対応が慣れあいになりすぎて、言葉かけなどに指示的口調や行動を制止するような発言がみられる。	言葉や行動1つ1つが虐待につながることはないように改めて自分達の言動を見直し防止に努める	施設内研修において定期的に接遇について見詰め直す。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。